

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102801		
法人名	有限会社 さくらんぼ		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	〒852-8144 長崎県長崎市女の都3丁目1-6 (電 話) 095-847-8440		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成20年2月18日

【情報提供票より】(19年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6	人
職員数	11 人	常勤 4 人, 非常勤 7人, 常勤換算	6.8	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	3 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円		
	夕食 円 おやつ 円		
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要 (10月 25 日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低 82 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飛永内科医院・久保歯科クリニック・聖フランシスコ病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南部は女神大橋、北部には大村湾が望める高台の住宅地にある3階建てのホームである。1階はグループホーム、2階は所長の住居、3階は事務所である。30年前からの所長の住居兼アパートであった事で、入居者は地域の一員としての暮らしに自然と馴染んでおられる。6名の定員のため、個別に対応が出来、行き届いたケアが実践されている。手書きの「さくらんぼ便り」は家族だけでなくホーム前の掲示板、公民館、派出所、協力病院、関係機関などに配布して地域との交流が積極的に図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善計画シートを活用して、各スタッフも認識されており、全体として改善されている様子が伺える。その中の、個人記録の書式については、改善は進んでいたがさらに、介護計画の目標がその日の評価につながるような記録の書き方、入居者の思いや意向が記録できるようなアセスメントの書式の工夫が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、全体の会議で読み上げられ「これでいいかどうか」の確認がされている。運営推進会議等での説明もある。また個人の評価も年2回されており、質の向上に取り組んでいる。介護計画の記入方法など、分かりやすい工夫が望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 参加メンバーは多彩で、会議の必要性を十分理解しており、討議内容も地域との交流を主体にしている。外部評価のこと、評価を上げるにあたって自己評価に取り組んだことなどの説明があり、ホームの状況報告もなされている。今後、更に自己評価、外部評価の結果を踏まえ、市町村との連携を強化し、さらなる取り組みに期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 母の日と敬老会、誕生会に家族を招いた食事会等、家族の訪問時に何気なく意見を聞くように心がけている。運営推進会議での家族の出席で、公での発言の機会があり、運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣には保育園や公園などがあり、催しのときには招待される。保育園児の突然訪問に歌など披露される事もある。又、町内会の運動会の参加やボランティアやヘルパーの研修の受け入れなど積極的である。地域の住民からは季節の頂き物があつたり、公園の畑の一角をホームのために利用させてもらったりするなど、入居者も地域の一員として暮らしていく事を積極的に支援している。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流を図り、家庭的な環境の中で、個人の尊厳が保たれ、健康で明るく自分らしい生活が送れるよう支援する」という理念が掲げられている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、朝スタッフ同士で唱和している。理念の実践のため3ヶ月に1回、全員で努力目標が定められている。スタッフ会議は、月に1～2回あり評価を行っている。又、職員採用時には、理念の読み合わせをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	この地域に住み、30年来の運営者と共に、入居者が地域で暮らし続けるための、基盤はできている。地域にある「ささえあいネットワーク」に参加しており、困りごとなどがあると駆けつけたり、介護教室のときには協力をしたりと、町内会や保育園の行事の参加にも積極的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全体で作り上げて運営推進会議にも報告している。スタッフ個人の評価と、点検も年2回行っている。外部評価の改善点などは、会議等で認識を共有し、改善に取り組み、日々のケアに繋げている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者状況、行事の報告などがあり、活発に有意義に意見交換がされている。出された意見は、できることからすぐにサービス向上に活かしている。会議での意見はスタッフにも回覧している。		

グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに、地域包括支援センターの参加があるが、今のところ、会議以外での積極的な関わりを持つ機会までには、至っていない。	○	市町村の保健センター(保健師、栄養士他)、食生活改善グループなどへの相談等他、ホームの実情を知ってもらうような、積極的な取り組みが、今後望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の「さくらんぼ便り」を家族に発信しており、個人の生活ぶりは、許可を得て、個人の欄に記載している。訪問時の帰り際に、意見などを伺っている。又、行事があるたび写真を撮り、アルバムに残している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、母の日と敬老会には家族とともに食事会を開き、交流を図っている。その時に意見を聞く機会を設け、アンケートはスタッフ会議で閲覧する事によってケアに繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職する職員の事は、入居者には伝えず、自然の推移に任せている。これまで退職によるトラブルはない。新しいスタッフが入った時は、一日オリエンテーションを行い、馴染みのスタッフに就いてもらうなどし、自然と馴染んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会は、主に責任者が参加している。報告は、文書としてスタッフに回覧している。又、大村の消防学校の研修は、2名参加し、積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、長崎グループホーム協議会の研修担当者として、活躍している。以前は、他のグループホームと交流があったが、最近は研修会での繋がりが中心である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は、訪問や見学をお願いしている。基本的には、1泊2日で体験入所して納得してもらうようしている。入居検討会議や、入居相談記録を作って検討している。	○	やむを得ず、急に入居になった場合は、自宅へ訪問するなど、生活状況の把握等の取り組みに期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の下ごしらえや味見、洗濯物を干したり、たたんだり、入居者本人の出来ることをしていただいている。餅つきや饅頭作りのときは、自然に手伝っていただいている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時には、気持ちがりラックスし、自分の思いをよく話されていて、その情報を全員で共有するように努めているが、気づきの言葉としてアセスメントに積み重ねるような仕組みとなっていない。	○	リラックスしたとき等に、思わず出されたご本人の言葉は、とっさにメモするなどし、アセスメントに記載し、気づきの言葉として積み重ね、潜在意識の高揚、エンパワーメントの引き出しに活かされる事が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者からの思いや、状況の記録は、前回の外部評価から改善されている。しかし、ご本人の意向や思い、ご家族や関係者の気づきや、意見なども取り入れられるような、書式の工夫に及んでいない。	○	上記アセスメントを積み重ねる事で、ご本人の意欲の抽出、よりその人らしい生活の支援につながるように、又、介護記録の目標が、その日のケアの実践として、さらに分かりやすい記録になるよう工夫を期待する。
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を目処に見直され、入居者の各人の長期・短期目標を、スタッフ全員が見られるようにし、確認している。朝礼等の申し送り等で、状態把握に努め、現状に合った見直しが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日の散歩や買い物の支援を行っており、「ささえあいネットワーク」での介護教室で支援をしている。ホームを活かした、地域の方のデイ利用には前向きである。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者3名は、隣の協力病院へ、その他3名は、家族の通院支援がある。急変時は、スタッフが支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの経験があり、その時は、隣の協力病院と密に連絡をとっている。今後は、スタッフの研修も視野に、支援をしていく方針であるが、重度化や終末期に向けた事業所としての方針は、まだ統一されるには至っていない。	○	重度化・終末期に向けて、できるだけ早い段階から話し合いの機会を作り、関係者全体の方針の統一を図っていく事が、重要と思われる。終末期においての医療処置の対応についても、医療機関や家族との話し合いで、具体的な内容の同意書で確認していく作業に期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者との会話は、穏やかでやさしさが感じられる。個人情報の保護などについては、会議等で確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは決めているが、ご本人のペースが尊重されている。ときには、カレンダー作りの手伝い、ボール投げなどしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は入居者と決めて作っており、手伝いや後片付けなども、協力して貰っている。職員も共に、同じ食事をしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は現在、女性だけで月・水・金に決めているが、必要時にはシャワーで対応している。入浴を拒む傾向のときは、言葉かけや話しかけの対応により、浴室まで背負っていくことで、応じられることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が出来ることや、したい事を支援している。料理の下ごしらえ、干し柿作り、芋づる剥きや、公園で花を植えたりをしている。時には、ドライブもかねて外食を楽しむ事もある。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、散歩に出かけ、ドライブや日帰りの食事にも支援している。天気の良い日の午後は、日光浴も兼ね食事をしたり、おやつにする事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践している。外出しそうな様子のときは、止めるのではなく、手をつなぎ、寄り添い、さりげなく声かけし、安全に配慮した支援をしている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を実施している。サイレン付きの拡声器での自主訓練や、近隣にはホームの見取り図を配布している。来年は、スプリンクラー設置を予定している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、10単位を基本にしているが、入居者の体重増加が気になっている部分がある。一日のおおよその水分量は、把握している。	○	地域包括支援センターや、自治体の保健センターの保健師・栄養士等に、定期的に献立を見てもらうなど、助言を仰ぐ取り組みに期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、2つのトイレがあり、車椅子対応など、その方に合わせて使用している。牛乳パックで作られた足のせは、入居者の座りごちをよくしている。又、食事の用意や、後片付け等、生活感にあふれている。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドとマットレス以外は、各自の物が持ち込まれており、趣味の物や、本人が使い慣れた家具、家族の写真などが飾ってある。季節の衣装などは倉庫に保管して、住みやすい環境に努めている。		